

第 8 回評価委員会の主な意見（第二期中期計画案について）

区 分	内 容
全 体	検討の結果、計画に具体化できなかった事項について、困難な事情を説明してもらえると、議論する場合に役立つのではないかな。
	客観的な評価ができるよう、計画の記載はこの期間内にここまでやるなどできるだけ具体的にすることがある。
	数値目標について、もっと具体的に書いた方がわかりやすいと思う。他の公立大学法人の指標を参照し、無理なく意味のある数値目標を出して欲しい。
	単年度予算の仕組みの中で 6 年間の中期計画を策定することの困難さがある。
教 育	「学部専門教育における到達水準の明確化を図るとともに、学位授与方針を策定し・公表する」と「GPA に基づく進級基準及び卒業判定基準を導入し、より厳格な成績評価を実施する」はリンクしている。大変難しい作業になるのではないかな。
	教育の到達水準に関して、名市大の学生・院生が共通して身につけないといけない人間としての基本的な資質について、中期計画の中で言及する箇所があっても良い。
	大学院が社会人に対して門戸を開くということと、社会人の学習需要を満たすということとを明確に区分する必要がある。
財 務	中期目標には市民や同窓会から広く寄附を集めることを掲げているが、中期計画に寄附について全く出てこず、ギャップを感じる。
	財務関係は数値目標が入れやすいと思うので、指標となるような数値について目標を掲げた方が良い。
自己点検・評価	大学として活動全体に対する評価を具体的に明らかにできるような、法人全体の自己点検評価についての具体的な方針が計画上にもっと前面に出てくるべきである。